

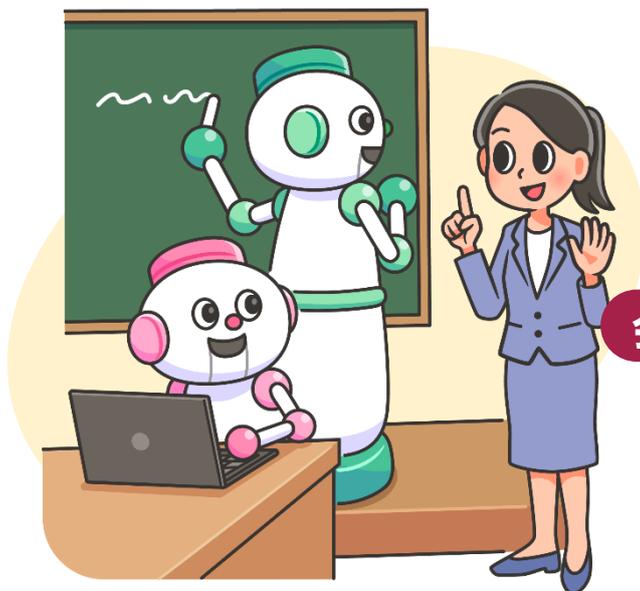


AIを活用して学校業務を効率化。そして、子どもたちにつけさせたい力は？

参加費
500円

ChatGPTを使った授業づくりと学びの未来を考える

学校でAIを活用するための ChatGPT学習セミナー



3/29(水)

会話だけじゃない！業務に使えるAI

- ・ AIに問題作成を手伝ってもらう
- ・ おたよりや要録の作成の手助けに
 - ・ クイズや学習支援を作成
- ・ エクセルのマクロを作ってもらおう



講師 古賀大吉

セミナー内容

1. chatGPTって何？
2. 業務改善のためのAI利用
3. 思考を深めるためのAI利用
4. AIを活用する力

※参加者同士で話し合いをする場面を用意しています。



ChatGPTにプロンプトを与えて作成した問題例

問題：クラスの生徒が30人います。鉛筆を1人につき3本配ると、鉛筆が10本足りません。鉛筆は何本あれば足りませんか？

問題：小学校の5年生が5人います。5人で鉛筆を均等に分けたら、1人に6本ずつ配ることができました。鉛筆は何本ありますか？

つぎのけいさんをしましょう。

1. $27 + 38 =$
2. $59 - 23 =$
3. $46 + 58 =$
4. $89 - 47 =$

【テスト問題】

つぎの漢字の読みをかきましょう。

1. (秋)の訪れを感じる風が吹いた。
2. 毎日の(習)は、
3. 池の(水)は、
4. (戸)は、

プロンプト(指示)が重要！

対象

教職員(小学校、中学校、高等学校など教育機関)

★知り合いの方を誘って
いただいてもかまいません。

開催日時

2023年3月29日 18:00-19:00(オンライン)

参加費用

500円

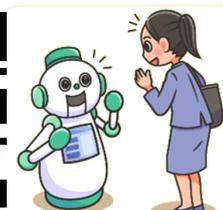
参加方法

Zoomによるオンライン参加(定員50名)

申込方法

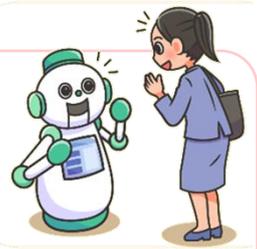
右の登録フォームから申し込みしてください▶

<https://edu-net.co.jp/chatGPT202303>



ネット検索は「辞書」AIは「秘書」。一文字違いの大きな違い

えっ！ AIってここまでできるの？



保護者向けおたより

春の訪れと新年度の始まりにあたって

この表題も
AIが作りました

春がやってきました。新しい命が芽吹き、色とりどりの花が咲き誇り、自然の美しさを感じる季節になりました。

新しい学年が始まる4月。私たち教員は新しい学期に向けて準備を進めてきました。子供たちが毎日楽しく学び、成長できるように、今年度も子供たちの成長の手助けができればと思っています。

「夢を見ることができれば、それは実現できる」という言葉があります。これは、ウォルト・ディズニーの言葉です。私はこの言葉のように、子供たちにも夢をもってさまざまな活動に取り組んでほしいと願っています。夢をもって挑戦することで、自分自身を超えて成長することができるのです。

新年度を迎え、私たちは一層気持ちを引き締め、子供たちと一緒に頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

算数の文章題

30人の児童がいます。えんぴつを3本ずつ配ると、えんぴつは10本たりません。えんぴつは全部で何本ありますか。

5人の児童がいます。5人でえんぴつを分けたら、1人につき6本ずつ配る事ができました。えんぴつは全部で何本ありますか。

2桁の計算問題

つぎのけいさんをしましょう。

1. $27 + 38 =$
2. $59 - 23 =$
3. $46 + 58 =$

漢字の読みを問う問題

つぎの漢字の読みをかきましょう。

1. 秋のおとずれを感じる風がふいた。
2. 毎日の習慣を大切にしよう。
3. 池の水面には魚が泳いでいた。

子どもがAIを使える時代に、改めて「学ぶこと」について考えてみませんか？

指示待ちに慣れて判断力を失いつつある人々は注意が必要

AIが書いたレポートを見抜ける自信はないが…慶大教授がChatGPTの登場に「まったく心配ない」と言い切る理由



慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
清水 勝彦（しみず・かつひこ）

レベルの高い文章を自動で作成し、検索にも使えるChatGPT。慶應義塾大学のビジネススクールで教壇に立つ清水勝彦教授は「文章作成・校正に限ればChatGPTの実力とコストはすさまじい。しかし、何かを質問をすると『わかりません』とは言わず、ソースも示さずに間違った情報を出してくることも。指示待ちに慣れて判断力を失いつつある人々は注意が必要だ」と警告する――。

ChatGPTを過大評価して大騒ぎする必要はないと思うし、過小評価あるいは進化を妨げようとするのもおかしい。要はうまく使えばよいのである。

ただ、そこで忘れられがちなのは作業としての勉強や仕事ではなく、そもそもの「目的」「価値」は何であったかをもう一度真摯に見直し、自分の勉強や仕事への姿勢に正直に向き合うことではないかと思われる。